

2019年4月 新大学病院棟誕生

心のこもった医療
最も新しい医療
納得できる医療



新大学病院棟は、ハイブリッド手術室、バイオクリーンルームを含め手術室9室のほか、リニアックなど高機能の機器を備えた放射線治療室や画像診断室等を有しており、これまで以上に高度で先進的な医療の提供が可能となります。病床数はICU14床を含め148床で、既存病院と合わせた病床数は554床となり、名実ともに大学病院にふさわしい体制が整うことになります。

Message



高柳 元明

東北医科薬科大学 理事長・学長

医学博士。専門は内科学(呼吸器・アレルギー)。
現在、日本私立大学協会副会長、日本高等教育
評価機構理事。

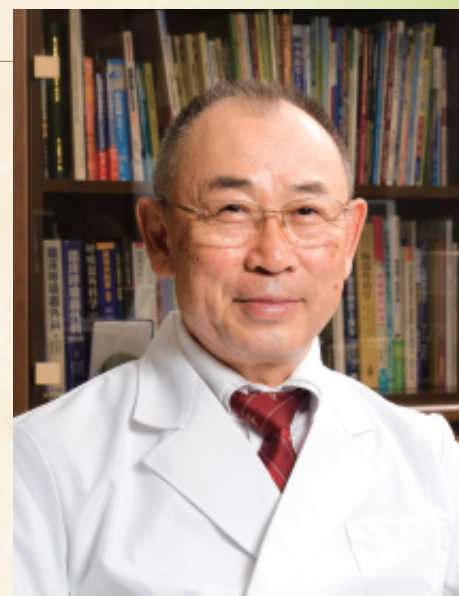
この度、昨年の教育研究棟に引き続き、福室キャンパス内で整備が進められておりました新大学病院棟の竣工式、定礎式が、去る1月29日にあり、皆様方に披露できますことは本学にとって大きな慶びであります。関係各位の皆様のご支援ご協力に深く感謝を申し上げます。

新大学病院棟は148床と大きくはありませんが、免震構造からなり、最新の医療設備機器をそなえ、大学病院としてこれまで以上に高度先端医療を提供できる体制になりました。本院のほうは、まだ改修工事が進められておりますが、全体として600床を超える医学部附属病院としての基準を満たすものとなります。

医学部1期生は4月より4年生になり、夏休み前の共用試験をへて、いよいよ附属病院等での臨床実習を体験することになります。これまでの座学中心の学習から、病に悩む患者さんと直接向きあうことにより、医師になる自覚、覚悟が一段と強固なものになり、また、人間として大きく成長し、臨床実習が一生忘れられない経験となるに違いありません。

Message

このたびの東北医科薬科大学病院新大学病院棟の完成により 2019年4月に病床数が88床増えて554床となりますが、最終的にはさらに616床まで増床することが可能な病院となり、名実ともに大学病院としての体裁が整ったと言えます。また、病床数の増加のみでなく、手術室が従来の7室からハイブリッド手術室など最新の設備を整えた9室に増えるとともに集中治療室が8床から14床、血管撮影室が2室から3室に増えてそれぞれ最新の機器が導入され、さらに放射線治療室の強化もはかられ、診療の質の面においても大きく向上します。東北医科薬科大学病院としてスタートして以来3年間で、様々な指標によれば診療の規模が20%から70%程度拡大していますが、求められる需要にはまだまだ対応しきれいていません。今後は、従来の病院棟を改修しつつ新大学病院棟の機能を存分に発揮して一層の対応力の強化に力を尽くして参りたいと考えております。



近藤 丘

東北医科薬科大学病院 病院長

医学博士。専門は呼吸器外科学。

新大学病院棟(新館) 148床



開放的な
スタッフ
ステーション



清潔感あふれる
病室



手術用顕微鏡（脳神経外科）

手術用顕微鏡KINEVO900は、昨年日本に初上陸した最新の顕微鏡です。

特に当科では術中に蛍光物質の静脈注射により血流を確認する蛍光血管撮影をインドシアニングリーンとフルオレサイトの2種類で施行できる仕様にしてあり、安全で正確な手術に繋がります。本機器は今までにはない種々の革新的なロボット機能を搭載して

います。特筆すべきは、顕微鏡の振動を最小限に抑える機能により、片手のみの操作で圧倒的な操作性を実現していることです。そのほかに、焦点を合わせた術野を中心に回旋する機能、ボタン操作一つで予め保存した術野と同じ倍率、同じ距離、同じアングルに瞬時に戻ることができる機能も有しています。これらにより、安全でより精度の高い手術を提供することができます。



手術用顕微鏡（眼科）

2018年4月より眼科手術用顕微鏡(OPMI Lumera 700)が導入されました。この顕微鏡は光学系に赤、青、緑の3つの波長に対して色収差を補正したアポクロマート、さらに照明系にはステレオ同軸照明という技術を採用しており、高解像度で忠実な色再現性により正確で安全な顕微鏡下手術が可能になっています。また照明等を制御する操作も容易に行うことが可能になり、様々なシチュエーションに対応できるようになりました。顕微鏡に広角眼底観察システムResightを取り付けることによって、網膜剥離や糖尿病網膜症などに対する硝子体手術も安全に行うことが出来るだけでなく、より質の高い見え方を目指した手術治療が可能になりつつあります。



手術支援ロボット（da Vinci）

最新型のXiシステムを東北地方で初めて導入しています。操縦台につけられたモニター画面では3D(立体)映像として腹腔内を見ることが出来るため、細やかな手術を安全に行うことができます。現在、当院泌尿器科では以下の2つを対象としてロボット手術を行っています。限局性前立腺癌に対して、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術(ロボット前立腺手術)を施行しています。

転移のない腎臓がんで大きさが7cm以下に対して、ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術(ロボット腎手術)を施行しています。